

子島・湯涌・上荒屋・河内・曲の十三ヶ村を含み、河北郡では下荒屋・朝ヶ屋・藤六・北袋・上山・折谷・大菱池・小菱池・魚歸・小原・平下・町・古郷寺・石黒又・板ヶ谷・柄尾・横谷・東市瀬の十八ヶ村を含んでゐた。此等の地は凡べて往古加賀郡であつたが、後淺野川以北が河北郡となり、以南が石川郡となつたのである。

ユウクジツケイ 湯涌十景 石川郡湯涌温泉を中心にした附近の十勝で、祇林紅樹・荒屋夜雨・青王暮雪・戸室夕照・市瀬秋月・笠松晚涼・杉村藤花・高尾朝霞・澁淵緑水・湯涌温泉を數へる。河島正卿の詩歌がある。

ユウクダニ 湯涌谷 石川郡湯涌附近なる淺野川の上流にある數村を湯涌谷と名づける。

ヨ

ヨイヤババ よいや婆々 珠洲郡清水では、陽曆二月七日薬師堂に參籠する風習があつた。その際男女の兒童か鬼取り遊びに類する戯をなし、それをよいや婆々というた。

ヨウエキニチロク 葉役日録 三卷。加賀藩士が、水戸浪士の上京阻止を命ぜられて、京都から越前葉原に出張して以來、浪士の降服を容れ、遂に之を福井・彦根・小濱の三藩に引渡して、彼等の刑戮せられたまでの事を書いてある。編輯に關係した人々は、監軍永原甚七郎以下十四人であるが、執筆したのは石黒堅三郎と歸山仙之助とである。

ヨウカクジ 養覺寺 鳳至郡東山に在つて、

眞宗東派に屬する。

ヨウキキヤク 用聞役 ↓ヨウニン 用人。ヨウキシユウラン 容儀集覽 一册。岡野和著。儀禮・大戴禮・左傳・論語等から四十二節の禮説、及び之に添へた義疏を抜いて、紀君子坐作進退之容儀・見於國君之容儀・入門登階之容儀に別つて編次したものである。文化六年十二月脱稿。

ヨウキヨクギゲ 謡曲義解 實生流謡曲を加賀藩人の註釋したもので、高砂・田村・熊野・班女・鶴岡・難波・兼平・千手・卒都婆小町・舟辨慶・老松の十一番のみが現存する。

ヨウキヨクケンカイサツケイシ 謡曲諺解 察形子 二十册。書名の頭に實生流の角書がある。謡曲俚諺察形子ともいひ、實生流謡曲内百番の註解書で、この種の書としては時代に於いて謡曲拾葉抄に次ぐものである。著者は堀麥水であるが、著作年代が詳かでない。麥水の子は、諸橋大夫權進であつたから、かうした述作に興味を持つたのもあらう。

ヨウキヨクケン 謡曲私言 一册。村井長道著。この著者の數部の述作は、能面と能裝束に關するものゝみであるが、謡曲私言の一部分に於いては、能及び謡の説明を試みて居る。本書の跋には、謡曲八拍子・能辨惑等の諸書に用ふるに足るものがないから、童蒙の訓とする爲、意に適ひ心に浮ぶことを筆記すると書いて居る。跋は天保二年十一月朔である。

ヨウキヨクマンジュシヨウ 謡曲萬壽抄 一册。擬謡曲を集めたもので、著者は不明であるが、その開卷第一に載せてある『盆正月』が、文政十三年五月藩侯齊奏の子慶寧の江戸

に生まれたを賀し、城下の士民が大規模の祝賀を舉行した次第を綴つたものであるから、略その著作年代がわかる。又安永九年高田善藏が中村萬右衛門を刺殺した事實を脚色した『竹の露』がある。その他酒三輪・日待頼政・藥莢上・酒三井寺・自然居士・大食景清・酒鉢木・風景清・鶴岡・鐵輪・放下僧の諸短編は、何れもぢり小論たるに過ぎぬ。

ヨウキヨクリケンサツケイシ 謡曲俚諺察形子 ↓ヨウキヨクケンカイサツケイシ 謡曲諺解察形子。

ヨウキン 用銀 加賀藩が用銀の調達を町人に命じたことは寛永十二年を以て初とする。即ちこの年十一月四日附稻葉左近から、かねや宗仁・越前屋孫兵衛・かみや徳庵・天祥屋彦四郎・越前屋宗壽・越前屋二郎兵衛に宛てた書面に、『今度者其元町衆へ、當家御三代初而御無心被仰遣候處、何れも馳走之旨満足之由候云々。』とあるものである。

ヨウケン 要玄 ↓サンドウヨウケン 三洞要玄。ヨウケンソシ 謡言粗志 四十二册。佐久間寛臺著。實生流謡曲二百十番の註釋で、世に行はれる謡抄の誤を正し、更に故事故實を勘考して審かに解説したものである。その内編二十冊は文化六年五月に成り、外編二十二冊は九年六月に成つた。

ヨウケンソシシユウイ 謡言粗志拾遺 三册。また謡言粗志脱漏と題したものもあつて、内容は全然同一である。佐久間寛臺の謡言粗志の遺漏を補つたものであるが、年代も著者も明らかでない。恐らくは同著者であらう。

ヨウケンソシダツロウ 謡言粗志脱漏 ↓

ヨウケンソシシユウイ 謡言粗志拾遺。

ヨウケンソシテイホ 謡言粗志訂補 四卷。佐久間寛臺の謡言粗志に註釋の行届かぬ點があつたのを、加賀藩の老臣村井長道が、その家來勝木元直・河合良温・澁谷重武に命じて修補せしめたもの。天保辛卯河合良温の序文がある。

ヨウコウイン 陽廣院 加賀藩主第四代前田光高の法號。詳しくは陽廣院將嚴天良大居士。

ヨウコウコウイケン 陽廣公偉訓 一册。前田光高著。士人に對する訓戒の言五十二條を記したものである。流布本は陽廣公御夜話と題するが、室鳩巢既に陽廣公偉訓序代賀人某作の文あるが故に、富田景周が校本を作つた時改題したものである。また陽廣公偉訓校正本といふのがあつて、同じく富田景周の撰に係り、寛政六年光高の百五十年忌に當り、偉訓を校訂し、別に公の教歌百首を添へたものである。

ヨウコウコウイジ 陽廣公遺事 一册。森田平次著。前田光高の行狀を、可觀小説等から抜いて輯録したもの。光高には御夜話録といふものがないから、その缺を補うたのである。

ヨウコウコウヒヤクエイ 陽廣公百詠 一册。前田光高が諸士を教訓する爲に詠じたもので、主二十首、臣二十首、使十首、組頭五首、咄五首、役人五首、小々姓二十首、日附十首、掃除坊主五首、計百首。外に奉公人心持十首を載せてある。ヨウコウジ 永光寺 (一)概説―鹿島郡酒井村に在つて、曹洞宗に屬し、僧肇山紹瑾の建立に係り、洞谷山と號する。肇山初め大乘